

4. 福井県坂井市立鳴鹿小学校

鳴鹿小学校の環境教育

福井県坂井市立鳴鹿小学校

本校の概要

鳴鹿小学校は、福井平野をうるおす九頭竜川の中流域に位置し、近くに重要な水源地である鳴鹿大堰がある。校区は古くから稲作が盛んで、継体天皇ゆかりの地として六呂瀬山古墳群などの遺跡もあり、自然に恵まれ、歴史ある落ち着いた雰囲気である。また、校区に県の総合グリーンセンターがあり、季節ごとの植物に親しむことができる環境でもある。児童数は140名余りで、ここ数年は1学年25名前後で推移している。

「心もからだも健康で、すすんで学ぶ、心豊かな児童を育てる」という教育目標を掲げ、「すすんで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」の児童像を実現すべく、保護者や地域と連携しながらさまざまな教育活動を展開している。「全日本小学校ホームページ大賞」では8年連続、県代表に選ばれたり、平成21年度に全国学校体育研究大会で学校体育優良校の表彰を受けたりしている。

本校の環境教育

平成14年度に校庭の西側にビオトープをつくり、環境教育を展開してきた。そして、平成19年から3年間、「学校エコ改修と環境教育事業」（環境省）の指定を受けたことをきっかけに、生活科と総合的な学習の時間（まほろば学習）を中心に環境教育への取り組みを一層充実させた。

「自然に対する感性を磨き、環境を大切にすることの育成」を研究主題とし、「自然から学ぶ」「生活から学ぶ」「自然と共生していく心」の視点から、地域の自然環境や教科等との関連を考慮し、学年ごとに研究テーマを設定して環境教育を展開してきた。

工事中は、断熱材の工事を見学したり、設計士の話を伺ったりして、改修工事を環境教育に生かしてきた。また、PTAや地域の方の協力を得て、地区探検を行ったり、ビオトープの整備を進めたりしてきた。

現在、「持続可能な社会の担い手を育てる」というESDの理念をより重視し、自ら進んで環境の保全に寄与する人づくりをめざして、環境教育のカリキュラムの改善を進めている。

〔資料〕

- ① リーフレット「環境教育の取り組み」（平成21年度作成）
- ② 「鳴鹿小学校の環境教育の概要」（平成20年度研究紀要より）
- ③ 第1学年～第6学年の環境教育関連の単元指導計画（生活科・総合的な学習の時間）



坂井市立 鳴鹿小学校「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校（平成19～21年度）

環境教育の取組み

学校教育目標

心もからだも健康で、すすんで学ぶ、心豊かな児童を育てる

めざす児童像

すすんで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子



研究テーマ

自然に対する感性を磨き、
環境を大切にする子どもの育成
—生活科・まほろば学習の充実—



自然から学ぶ

川・用水・水田・ビオトープ
生き物・風・温度……

生活から学ぶ

緑のカーテン・ごみの分別
水の汚れ・住宅・省エネ……

自然と共生していく心
（自然・人に思いやり）

縦割りグループによる自然体験・仲間づくり



育てる見方・考え方

- 人も自然の中で生きている。
（生き物がすみやすいところは、人も住みやすい。）
- 自然と共生していくためには、自然にも人にも思いやりを持つことが大切。
（生き物も人も健康に快適に過ごしたいという願いを持っている。）
- 自然と共生していくためには、自然のことを知り、自然を大切にする行動が必要。
（低環境負荷、循環、共生、持続可能な資源の利用の考え方を生活に活かす。）

※まほろば学習：鳴鹿小学校の総合的な学習の時間の名称

1年

「自然とあそぼう」

「自然とあそぼう」というテーマのもと、ビオトープや校庭の生き物、アサガオの成長の様子を観察し記録していきました。また、グリーンセンターで集めたどんぐりや落ち葉を使っておもちゃを作り、祖父母を招待していっしょに楽しく遊びました。冬は、校庭で雪遊びをしたり、氷作りをしたりして冬の外遊びの楽しさを満喫しました。

一年間を通して、子どもたちは、自然とふれあい関わりながら季節の変化に気づき、いろいろなことを五感を使って感じ取ることができました。



落ち葉のシャワー



雪あそび



アサガオの観察

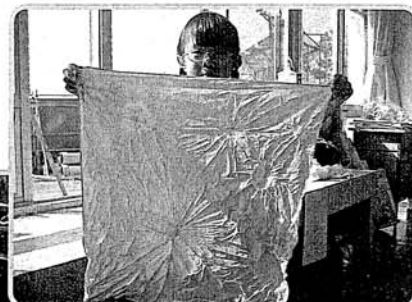
2年

「自然と友だちになろう」

生活科を中心にビオトープや築山、グリーンセンターへ季節ごとに出かけたり、いろいろな野菜を育てて収穫したりして活動してきました。築山でよもぎの葉を見つけた時は「よもぎ団子」を作ってみんなで味わいました。また、グリーンセンターでいろいろな種類のどんぐりやきれいな落ち葉を集めて「どんぐり染め」をしたり、「牛乳パックを再利用した紙作り」をして秋まつりの絵馬にしたりしました。このように、自然に親しむ場をたくさん設け、自分で考えて活動することを大切にしてきました。



よもぎの葉を使って団子作り



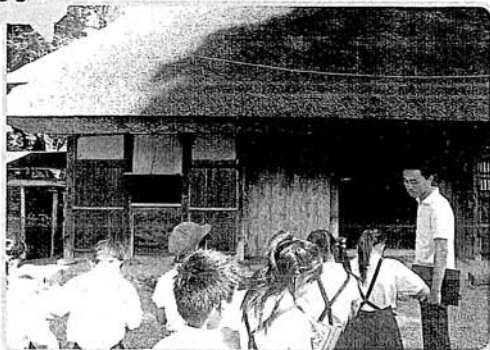
どんぐり染めの
模様作りに挑戦



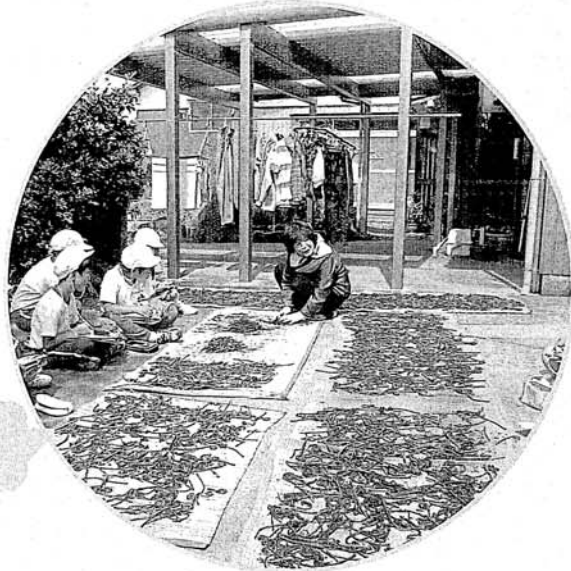
牛乳パックを
再利用して紙作り



古民家見学



地区探検



3年

「鳴鹿、大好き！ 鳴鹿ってどんなところ？」

「やすらぎの家」での発表会

自分たちが住み、慣れ親しんでいる身近な地域の良さを再発見し、その魅力を発信しようというねらいで学習を進めてきました。見学やフィールドワークを中心に、地区や町以外の施設と景色に触れる中で、改めて自分たちの地区の良さを再認識することができました。そのまとめとして、グループごとにテーマを決め、鳴鹿地区のお宝探しを行いました。IT機器などを利用しての発表会を行い、その成果を共有することができました。



4年

「鳴鹿っ子エコレンジャー」

ごみや水の学習を手がかりにして身近な環境問題に目を向け、どのようなことに気をつけて生活すれば環境や資源を守るかについて考えたり、地球温暖化について調査したりしました。それから、節電・節水を呼びかけるポスターや、地球環境問題に関するグループ新聞、紙芝居などを作って、自分たちの活動内容を全校児童に発信しました。さらに、活動を地域に広げ、ごみを分別することの大切さを伝える創作劇を鳴鹿幼保園で発表しました。

クリーン作戦で拾った
ごみの分別



鳴鹿幼保園での創作劇の発表



新聞紙を使ったエコバッグ製作



5年

「米づくりで考えよう 鳴鹿の環境」 「鳴鹿エコプロジェクト」

まほろばファームとかかわりながら、稲の生長調べや田・畦の生物調べ、水質調査などをしたり、収穫したものを使って、葉っぱずしやほうきなどの生活に生かせるものを作ったりしました。これらのことから、農業と地域の環境との関係や自然界の物質の循環の巧みさについて考え、環境保全の大切さについて学びました。また、さまざまな調査を通して、「エコ改修」の意義を考え、自分たちでも「プチエコ作戦」に取り組みました。



まほろばファームの生物調べ



伝承料理「葉っぱずし」作り



ペアガラスの温度調査

6年

「鳴鹿まほろば物語」 「鳴鹿エコプロジェクト」

先輩たちから受け継いできたビオトープの調査と、本年度着工となったエコ改修に関する調査の2本柱で取り組んできました。ビオトープについては、トンボ池とホタル池の二つの池を守り育てるとともに、ホタルが生息できる環境づくりについて調査しました。また、緑のカーテンづくりや、エコ改修で活用される省エネ技術、改修前後の教室環境の調査をしながら、快適な生活と環境との両立について考えてきました。



緑のカーテンづくり

ホタルの生息できるビオトープへ



エコ改修の省エネ技術調査

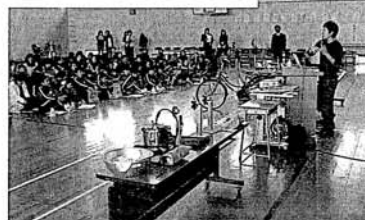


親子環境学習会

(愛育会研修委員会・母親委員会主催)

平成19年11月10日

- 講演会「わたしたちの健康と環境ホルモン
―身の回りにある体に害をあたえるもの―」
講師：福井大学医学部 日下幸則教授
- 環境クイズと発電体験



平成20年11月8日

- 講演会「エコ改修で鳴鹿小学校が変身」
講師：走坂建設設計事務所 水上諭設計士
- サーモグラフィ実験
- 環境クイズ



工事見学会

(平成21年10月5日 常任委員会)

内と外の断熱の施工の様子を見学し、断熱の効果についての説明を聞きました。



鳴鹿小学校エコサポーターズクラブ

(平成21年4月発足)

学校の環境教育を支援し、環境保全の取り組みを家庭や地域へも広げていくための活動を展開します。

- エコキャップの回収
- 緑のカーテンコンテスト
- ビオトープの整備



鳴鹿小学校の環境教育の概要

1 本校にとっての環境教育事業の意味

- ① 自然から学び、自然に感謝し、自然を大切にする心を育み、地球環境を大切にしたいライフスタイルをもつ人の育成 → 時代の要請に応える
- ② 豊かな自然体験を重視し感性を磨く
→ 子どもの人間性を豊かに、学びを豊かにする
- ③ 豊かな自然と人に恵まれた地域、ビオトープ、サケの放流事業
→ 本校の特色がさらに活かされる
- ④ 学校エコ改修に学校が参加する → 問題解決の実践に参加する
→ 未来のために行動できる人づくり

2 本校の教育目標から見た環境教育事業

学校教育目標 心もからだも健康で、進んで学ぶ、心豊かな児童を育てる

本校のめざす児童像

すすんで学ぶ子
思いやりのある子
たくましい子



研究テーマ

自然に対する感性を磨き、環境を大切にする子どもの育成
ー 生活科・まほろば学習の充実ー



本校のランドデザイン

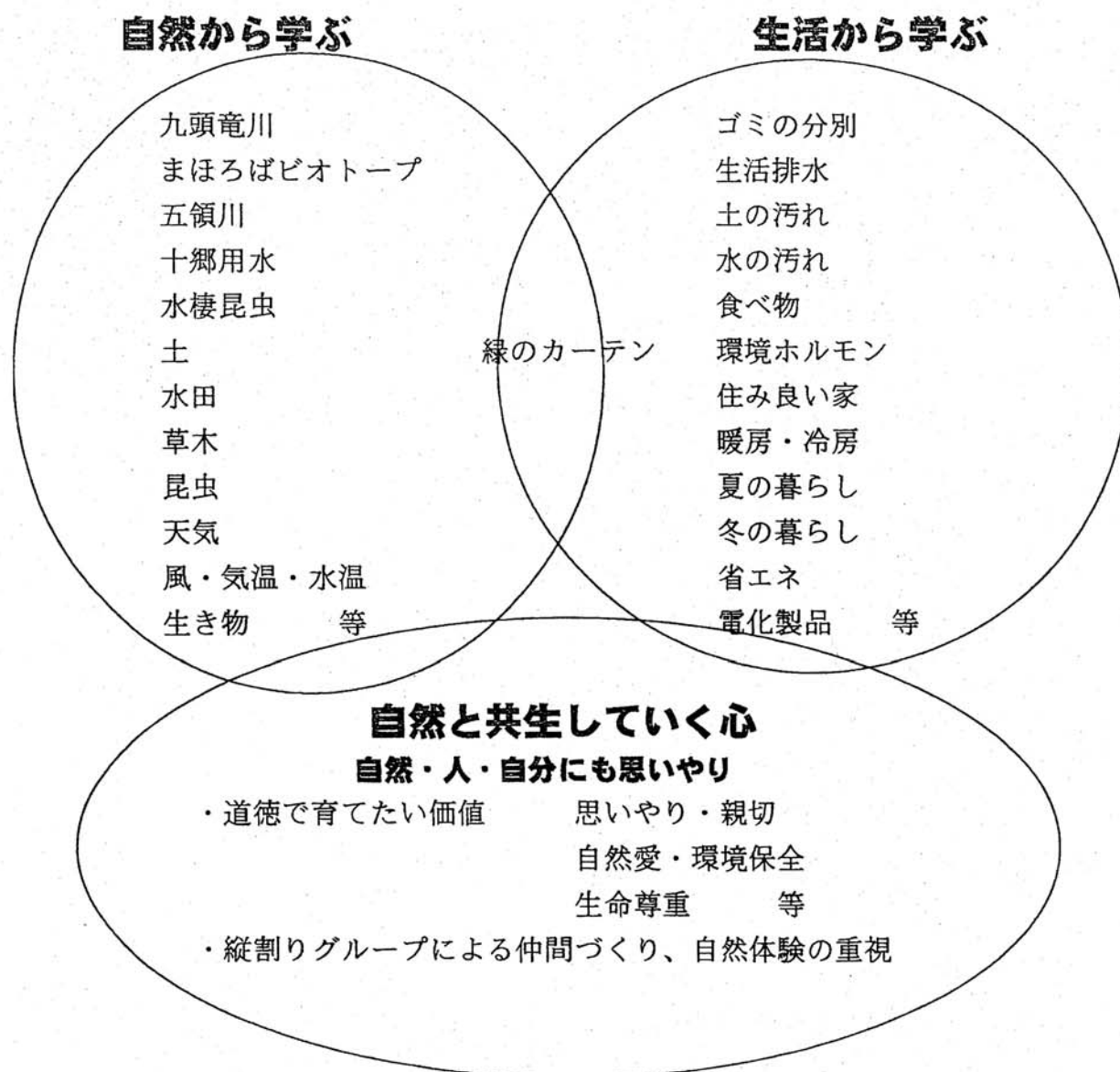
3 本校の環境教育の進め方

(1) 生活科・まほろば学習（総合的な学習）の充実

環境教育は、生活科やまほろば学習（総合的な学習）を中心に、国語・社会・理科・家庭・体育（保健）等の教科との関連を図りながら取り組んでいる。取り上げる内容は、さまざまなものがあるが、本校では、**自然から学ぶ・生活から学ぶ** という2つの側面から学習を進めている。

また、環境教育を支える**自然と共生していく心**を育むために、道徳、縦割りグループによる仲間づくり、自然体験、そして健康教育に力を入れている。

< 環境教育構造図 >



こういった取組を通して、子どもの豊かな感性が育ち、次のような見方・考え方が育っていくと考えている。

- ①季節に合わせて生き物は活動している。生き物が住みやすいところは、人も住みやすいところなんだ。
- ②人も自然の中で生きている。共生するためには、自然のことを知り、大切にしようとする心を一人ひとりがもち、行動していくことが必要なんだ。
- ③みんなが健康に、快適に過ごしたいという願いをもっているんだ。
- ④自然と共生していくためには、自然にも人にも自分にも思いやりをもつことができる人になることだ。

- ⑤一人ひとりが次の4点を意識して、実践し広げていくことが地球を救うことになるんだ。

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 | 環境への負荷が低いこと（低環境負荷型） |
| 2 | 循環を基盤とすること（循環型） |
| 3 | 共存・共生を基盤とすること（共生型） |
| 4 | 持続可能な資源を利用すること（持続可能資源利用型） |

(2) 保護者・地域への発信とその活動

環境教育の視点や考えが、保護者・地域にも広がっていくように考え、次のようなことを実施してきた。

- 地域・学校運営協議会（まほろば協議会）に取組を報告
- 各学年のおたよりやホームページによる実践の報告
- 愛育会研修・母親委員会による親子研修会を環境教育の視点から実施
- 親子のつどいで自然体験を実施（4年「星を見る会」）

4 鳴鹿小学校エコ改修に期待したいこと

- ①学校は、暑くても寒くてもがまんするところ から地域の環境とマッチした快適なところへと変わる。
- ②改修前と改修後で、変化が実感でき、長期間修繕しないでも快適さが継続できる。
- ③子ども達が取り組んだまほろば学習等の学びの中で得た意見が、校舎改修の設計に反映される。
- ④自分も地球環境を守るために、力を発揮することができるという意識が高まるような設備がもうけられる。（簡単な計器類が設置され、いつでも見ることができるコーナーづくりや環境について継続して学習できる設備）

第1学年 生活科単元計画

1 単元名と目標 (全19時間)

「ふゆがきたよ」

【生活への関心・意欲・態度】

野外に出かけて、雪や氷、冬の自然を生かして遊んだり、昔からの伝統的な遊びをしたりして、友だちや地域の人と楽しく遊ぼうとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

みんなと楽しく遊ぶための遊びを考え、友だちと教え合ったり、高齢者などから伝統的な遊びを教わったり、また、教わった昔の遊びを年少者に教えたりして、工夫して遊ぶことができる。

【身近な環境や自分についての気づき】

冬の自然を利用した遊びや教わった遊びなどを通して、季節の変化に気づいたり、高齢者の温かさや、友だちと工夫し合い協力し合って活動したりするよさに気づく。

2 単元構想図 A (学ぼうとする力) B (学ぶ力) C (学びを生かす力) 全19時間

生活①ふゆをさがそう

第1次 冬を見つけよう②

- A 冬の兆しを観察し、校庭探検地図にまとめる。
校庭やピオトープへ行って、冬の自然を観察しよう。 ②
- ・秋にいたピオトープの生きものたちはどこへいったのかな。
 - ・木にみのむしがいたよ。かわいいね。

- 1 ピオトープの冬の自然、季節の違いに気づくことができる。

生活②ふゆとあそぼう

第2次 ふゆにはどんなあそびがあるか調べよう⑤

- A おうちの人にインタビューをして、雪遊びや昔遊びの思い出を発表し合う。 ①
- ・昔は外で遊ぶことが多かったんだね。
- A いろいろな遊びを楽しもう。 ③
- B ・おはじきは、楽しいね
・こまを回すのは難しいな。
- C 昔遊びの名人になるためには、どうするといいのか、みんなで考え教え合う。 ①
- ・お手玉は、まっすぐ上にあげると上手くできるよ。
 - ・こまは、投げ方がポイントなんだよ。

- 1 冬の外遊びや昔からの伝統的な遊びに関心をもとうとしている。

- 2 冬の外遊びや昔からの伝統的な遊びにチャレンジして、みんなで楽しく遊ぶことができる。

- 3 昔遊びの名人になるには、どうするといいのかに気づき、教え合うことができる。

生活③つくってあそぼう

第3次 昔のおもちゃをつくって遊ぼう⑤

- A 幼稚園児との交流会で遊ぶための、作る物を決めよう。 ①
- ・けんだまを作って一緒に遊びたいな。
 - ・しゅりけんにどんぐりをつけた、手作りこまをプレゼントするといいね。
- B 身近な物や秋の落ち葉や実を使っておもちゃや飾りを作ろう。 ②
- ・よく回るぶんぶんごまを作るよ。
- C 友だちといっしょに遊び、遊び方を工夫しよう。 ②
- ・けん玉のひもを長くすると難しいね。

- 1 自分のつくりたいものを決めることができる。

- 2 身近な材料を使って、試しながら、遊び道具をつくったり、つくった道具で遊んだりすることができる。

- 3 つくったもので、みんなと遊ぶとより楽しいことに気付くことができる。

生活④みんなでたのしくあそぼう

第4次 おじいちゃんやおばあちゃん、幼稚園児と一緒にたのしもう⑦

- A 祖父母や幼稚園児と一緒に遊ぶための計画を立てよう ①
- ・楽しんでくれるかな。
- B 祖父母や幼稚園児が楽しめるような展示や準備をしよう。 ②
- ・どんなおもちゃで遊ぼうかな。
- C 祖父母や幼稚園児といっしょに遊ぼう。 ④
- ・来てくれる人に招待状を出そう。
 - ・ぼくは、こま名人になったよ。上手く回せることを教えてあげるね。

- 1 自分たちだけでなく、みんなで遊ぶにはどうしたらいいのか考えようとしている。

- 2 祖父母や幼稚園児のことを考えて、遊び方やつくり方を工夫したり準備したりすることができる。

- 3 みんなで楽しく遊ぶために必要なルールに気付きルールを守って遊ぶことができる。

- 4 昔の遊びのよさや、身近にあるものを利用してみんなと遊ぶことの楽しさに気づくことができる。

第2学年 生活科単元計画

1 単元名と目標 (全23時間)

「みんなで つくろう フェスティバル」

- (1) これまで体験した行事や地域で見聞きした行事を参考にして、自分たちの祭りをやろうと、進んで楽しく活動する。
- (2) 祭りに必要なものを工夫し、協力して準備する活動を通して、みんなでつくろうと意識して考えたり、発見したり感じたりしたことを話し合うことができる。
- (3) 思いを込めて、みんなが楽しくなるものをつくることのできる。
- (3) みんなで力を合わせることで祭りを行うことができる喜びや楽しさに気づくことができる。

2 単元構想図 A (学ぼうとする力) B (学ぶ力) C (学びを生かす力) 全23時間

生活① ぼく・わたしの祭り

◇評価

第1次 祭りをやろう④

A 祭りについて知っていることを話し合う。
祭りではどんなことをするのか? ①

- ・うちの人に聞こう。
- ・いろいろな催しがあるんだね。

①自分の地域の祭りではどんなことをしていたかを思い出し、友達に教えることができる。

A 祭りの名前を考えよう。
祭りで自分がやりたいことはなにか。 ①

- ・お店がいいね。
- ・歌の発表もしたい。

②祭りでどんなことをやるのか決めることができる。

B 自分たちの身近な物や自然の物を使って、どんなことができるか話し合おう。 ②

- ・リサイクルできる物も使おうよ。
- ・秋の実りを使って、お店を作ろう。
- ・お店の設計図もつくろう。

③みんなに喜んでもらえるような祭りになるよう、工夫を考えることができる。

生活② 世界に一つだけのお店をつくろう

第2次 祭りだ、祭りだ準備をしよう⑤

A 自分たちの考えたお店をつくろう。 ⑦

- ・どんぐりやまつぼっくりを使ってみよう。

①みんなでアイデアを出し合いながら、いろいろ工夫してお店をつくることのできる。



B 祭りをもっと楽しくなるように工夫しよう。 ④

- ・お店のパワーアップを考えよう。
- ・かざりつけはどうしよう。
- ・役割分担を考えておこうよ。

②友達によい考えをもらって、お店がもっと楽しくなるように工夫することができる。

C 祭りをもっと盛り上げよう。 ④

- ・プログラムや体育館の飾り付けもしようよ。
- ・お店の衣装もあると楽しいね。
- ・祭りに招待したい人たちに招待状を送るといいね。
- ・お店のPRもつくろよ。

③祭りに来てくれる人たちのことを考えながら準備をすることができる。

第3次 なるかっ子祭りを楽しもう④

C お祭りだ。楽しもう。 ③

- ・いらっしゃい、いらっしゃい。

①進んで、祭りに参加することができる。

C 全校のみんなにも見せよう。 ①

- ・3月に行われる卒業生を送る会で、自分たちの作った衣装をみせたいな。

②全校の前で発表するために、もっと工夫するいいところを出し合って、これかにつながようとしている。

見
つ
け
る

つ
か
む

調
べ
る

広
げ
る

第3学年 まほうば学習の単元計画

1 単元名と目標 (全40時間)

「鳴鹿、大好き！鳴鹿ってどんなところ？」

- (1) 地区探検や生き物の飼育などの活動を通して、自分たちが住む町の自然の豊かさや、暮らしやすさを感じ取り、愛着をもつことができる。
- (2) 自分たちにできる町の自然を守る方法を考えたり、学習したことをまとめて他学年に発表したり、地域の人に発信したりして、環境に対する意識を高めることができる。

2 単元構想図 A (学ぼうとする力) B (学ぶ力) C (学びを生かす力) 全40時間



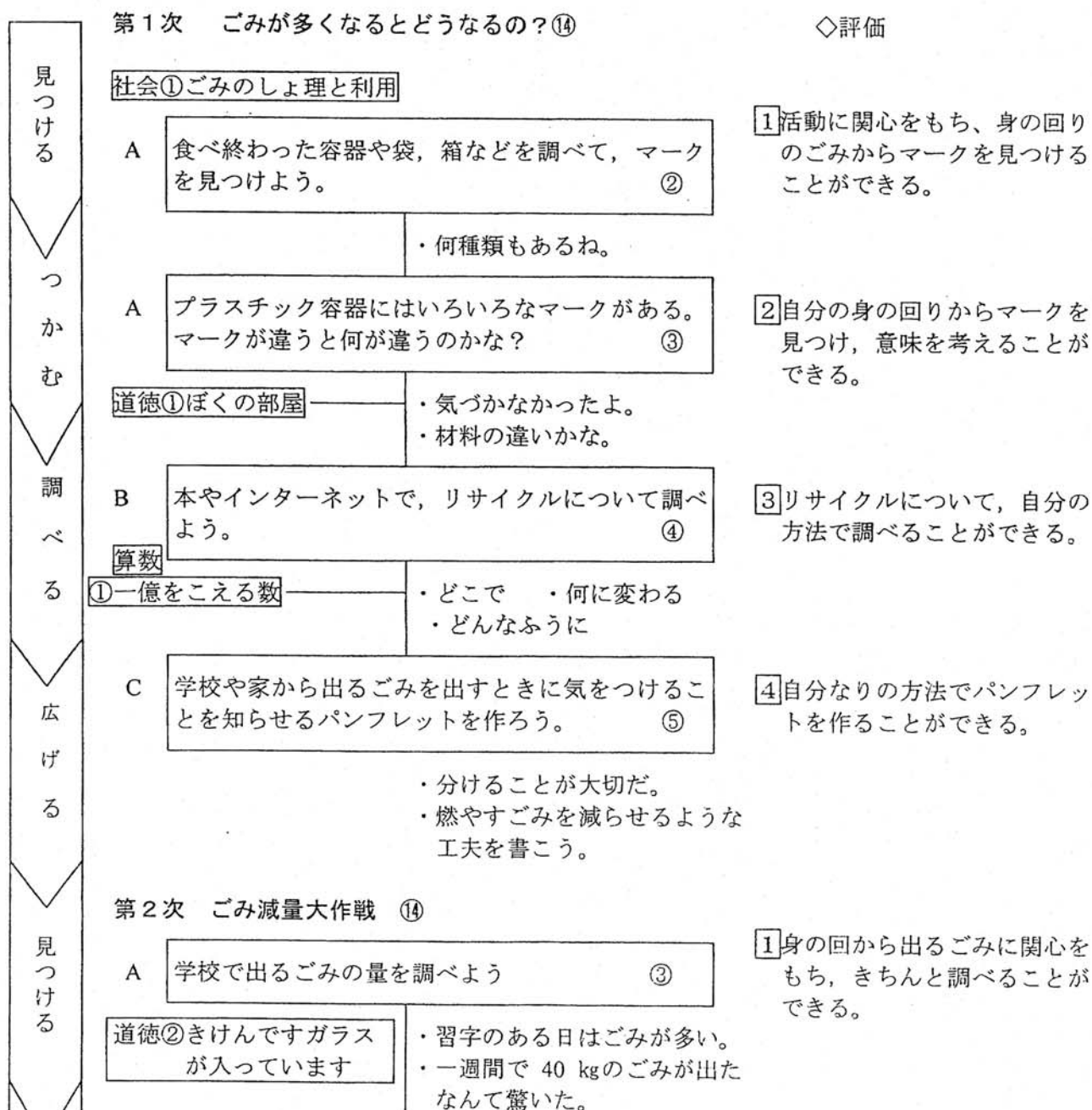
第4学年 総合的な学習の単元計画

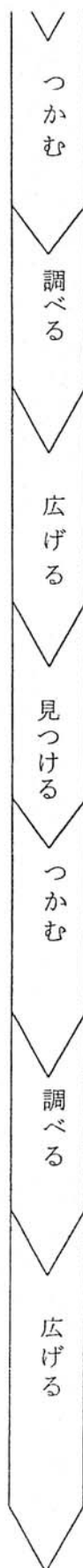
1 単元名と目標（全40時間）

「鳴鹿っ子エコレンジャー」

- (1) ごみや水の学習を手がかりに、自分たちの生活を見つめ直し、問題点を洗い出すことができる。
- (2) どのようなことに気をつけて生活すれば、環境や資源を守れるかを考え行動することができる。

単元構想図 A（学ぼうとする力）B（学ぶ力）C（学びを生かす力）全40時間





ごみを減らすために、自分たちができることを考えよう。 ③

B

道徳③富士山を守る

・家の人にも聞いてみよう。

B

学級で話し合ったことを活かして、3 R活動に取り組んでみよう。 ③

国語①4年3組から発信します

・エコバックはいつも使っているよ。
・家の人にも協力してもらおう。

C

学習してきたことを新聞にまとめて、全校児童に発信しよう。 ⑤

・新聞の書き方を工夫しよう。

第3次 鳴鹿幼保園を訪問しよう ⑫

A

自分たちの活動を地域に発信する方法を考えよう。 ①

B

鳴鹿幼保園の子どもたちに、ごみを分けることの大切さを知らせる方法を考えよう。 ③

・紙芝居をしよう。
・劇で伝えよう。

B

ごみをきちんと分けて、リサイクルするこの大切さを知らせる劇を作ろう。 ⑥

・どうしたら幼保園の子どもたちに分かってもらえるかな。

国語②調べて発表しよう

C

自分たちで創作した劇を幼保園の子どもたちに見せて、「ごみ減量大作戦」として取り組んできたことを知らせよう。 ②

・ごみのポイ捨てはいけないことや、リサイクルが大切なことを伝えよう。

② 3 R (リデュース・リユース・リサイクル) の観点から、ごみを減らす方法を考えることができる。

③ 3 R活動に取り組み、できたことや、できなかったことを報告する。

④ 自分たちの活動の様子や、ごみを減らす方法について、全校児童に分かりやすく伝えることができる。

① 地域に発信するためにやってみたいことを考えることができる。

② 幼保園児にごみの分別について伝える方法を考えることができる。

③ リサイクルの大切さを知らせる劇を工夫して作ることができる。

④ 劇を通して、ごみのポイ捨てはいけないことや、リサイクルが大切なことを幼保園児に伝えることができる。

第5学年 まほろば学習の単元計画

1 単元名と目標（全45時間）

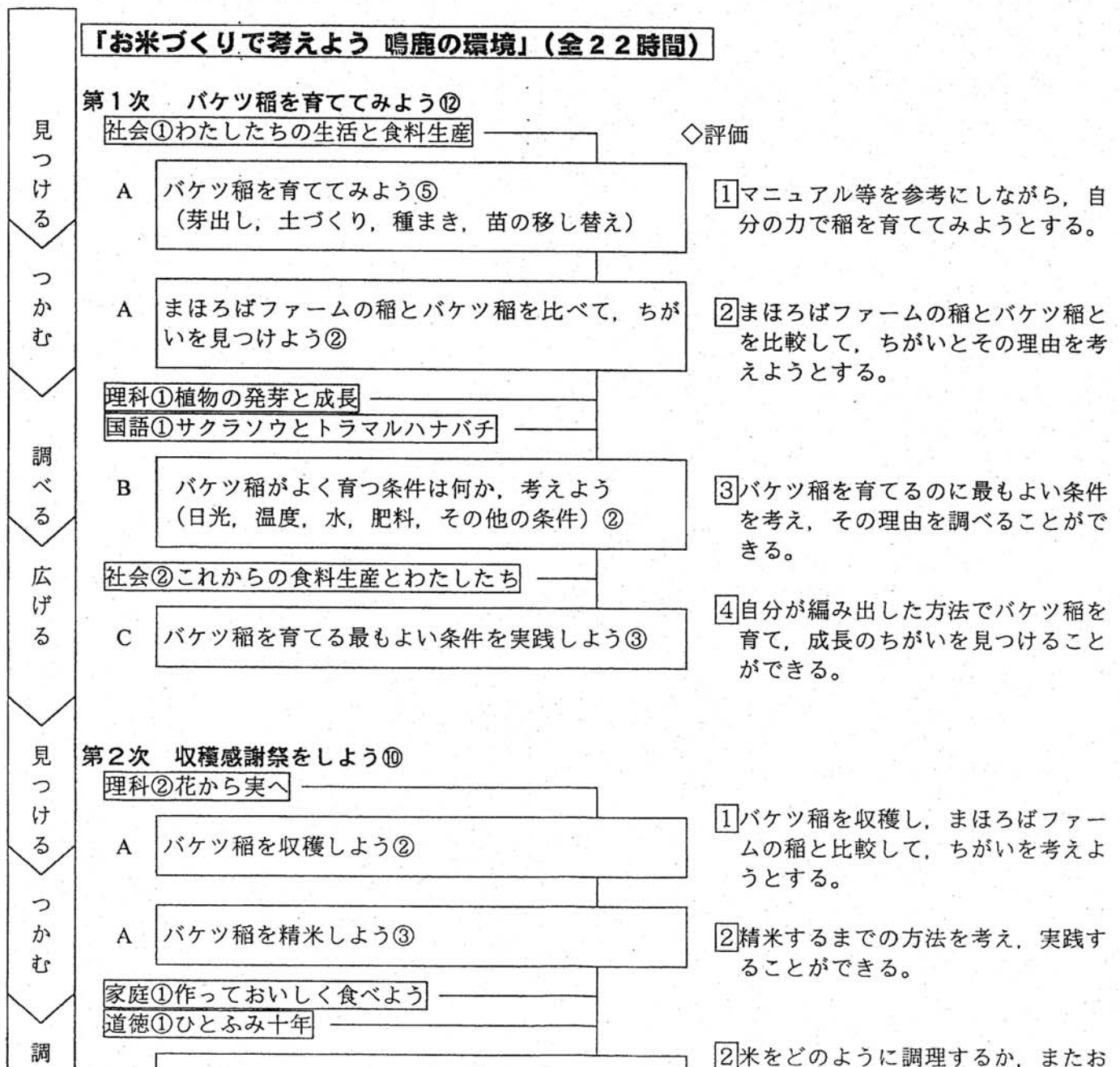
「お米作りで考えよう 鳴鹿の環境」（全22時間）

- (1) バケツ稲づくりやまほろばファームの観察を通して、植物の成長の条件を考えながら安全でおいしいお米をたくさん作る方法を工夫することができる。
- (2) 自分たちの力で米づくりを行ったことへの達成感を味わい、産業に関わることへの意欲をもつ。

「鳴鹿エコプロジェクト」（全23時間）

- (1) 「エコ改修」の意義を理解し、「エコ」について考えることができる。
- (2) 「5R（リデュース・リユース・リサイクル・リペア・リフューズ）」の視点から現状を見つめ、環境への負荷が低い生活について、提案することができる。

2 単元構想図 A（学ぼうとする力）B（学ぶ力）C（学びを生かす力）全45時間



べる
広げる

B 収穫感謝祭の持ち方を考えよう③

C 収穫感謝祭をしよう②

世話になった人に感謝する方法を考
えることができる。

③感謝の気持ちをこめて楽しく感謝祭
を行い、鳴鹿の自然を味わうことが
できる。

見
つ
け
る

つ
か
む

調
べ
る

広
げ
る

見
つ
け
る

つ
か
む

調
べ
る

広
げ
る

「鳴鹿エコプロジェクト」(全23時間)

第1次 エコ改修で考えよう⑩

◇評価

A エコ改修とはどんな改修なのか考えてみよう①

理科③天気と気温の変化

A エコ改修に採用される省エネ技術を知ろう②

親子環境学習会

国語②伝え合って考えよう

B エコ改修に採用される省エネ技術について調べ、
環境にどうよいのかを考えよう⑤

道徳②世界初のトンボ保護区づくり

C 自分たちでもできそうな省エネ技術「鳴鹿プチエ
コ作戦」を考えよう②

①「エコ改修」について進んで知ろう
とする。

②「エコ改修」に採用される省エネ技
術について興味をもつことができ
る。

③省エネ技術について、さまざまな方
法で調査し、環境にどうよいのかを
考えることができる。

④調べた内容を生かし、自分たちでも
できそうな省エネ技術を考えること
ができる。

第2次 鳴鹿プチエコ作戦⑬

社会③わたしたちの生活と環境、森林

A 「エコ」について考えてみよう②

家庭②快適な住まい方を考えよう

A 今の鳴鹿小学校の「エコ」じゃないところを考え
てみよう④

道徳③天からの手紙

B 自分たちが考えた「プチエコ作戦」の効果を調べ
てみよう④

国語③目的に応じた伝え方を考えよう

社会④わたしたちの生活と情報

C 鳴鹿プチエコ作戦とその効果を家庭や地域に発信
しよう③

①「エコ」という言葉のもつ意味を進
んで考えようとする。

②「エコ」の視点から今の鳴鹿小学校
について考えることができる。

③自分たちが考えたプチエコ作戦の効
果について、さまざまな方法で調べ
ることができる。

④調べたことをまとめ、さまざまな方
法で発表することができる。

第6学年 まほろば学習の単元計画

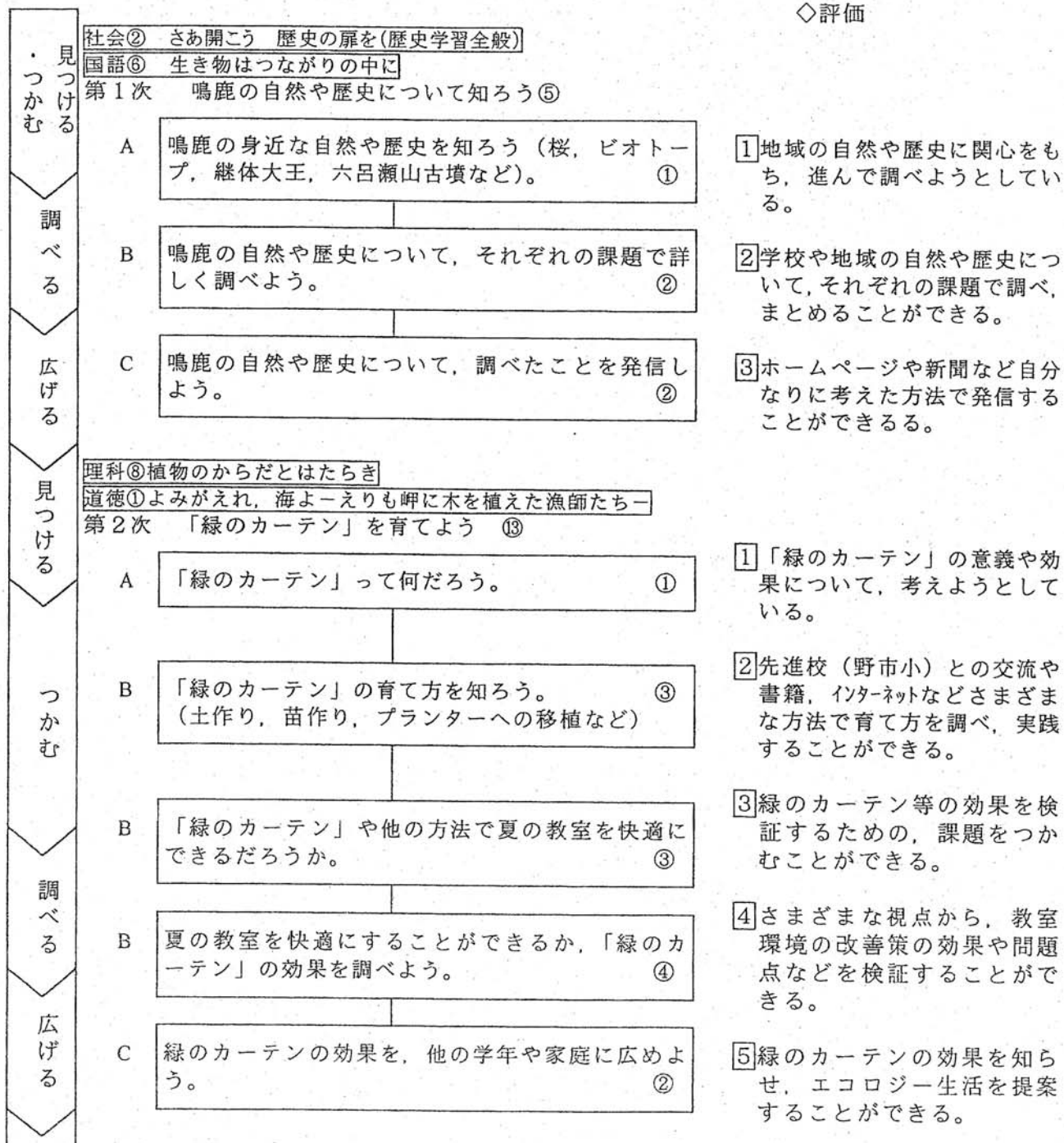
1 単元名と目標 (全45時間)

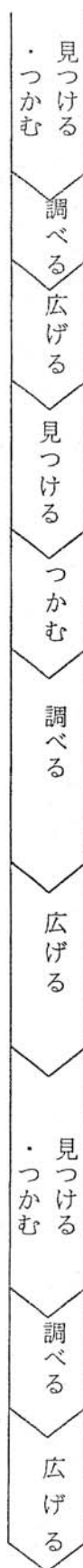
「鳴鹿まほろば物語」「鳴鹿エコロジー作戦」

- (1) 学校や地域を取り巻く環境、歴史について考え、その素晴らしさや守り育てていくことの大切さを、地域や後輩たちに伝えることができる。
- (2) 「緑のカーテン」や「ペレットストーブ」など、省エネルギーや環境への負荷低減を考慮した教室環境の改善策を考えるとともに、「エコ改修」に向けて自分たちの考えるエコロジー生活を提案することができる。

単元構想図 A (学ぼうとする力) B (学ぶ力) C (学びを生かす力) 全45時間

◇評価





第3次 ビオトープの改善策を考えよう ⑦

理科 ⑫動物・⑧植物のからだとはたらき ⑨生き物のくらしとかんきょう

A ビオトープの現状を調べ、どんな問題点があるのか、課題を見つけよう ②

B ビオトープの改善策について話し合い、考えよう。②

C ビオトープの改善策を提案しよう。③

国語⑬共に考えるために伝えよう 社会⑧みんなの願いを実現する政治

理科⑨生き物のくらしと環境 家庭⑪近隣の人々との生活を考えよう

第4次 「エコ改修」に向けて提案しよう ⑫

A 「緑のカーテン」の実際の効果を確認めよう。①

B 「緑のカーテン」の良い点をまとめよう。③

B 人や環境に優しい「エコ改修」について考えよう。③

B 「ペレットストーブ」の効果を調べよう。③

C 「エコ改修」に向けて提案しよう ②

国語⑥聞く人の心に残るように発表しよう 社会 歴史学習全般

理科⑪人とかんきょう

第5次 鳴鹿の自然や歴史、まほろば学習の活動を後輩に受け継ごう ⑧

A 「緑のカーテン」やビオトープ、地域の歴史などについて学習したことをまとめよう。②

B 鳴鹿の自然や歴史、後輩に受け継ぎたい環境学習活動などについて、発表原稿にまとめよう。④

C 最高学年として、鳴鹿の自然や歴史に対する想いを、下級生に向けて発表しよう。②

① ビオトープの現状の問題点を見つけ、課題をつかむことができる。

② ポスターセッションによって課題解決の方法を考えることができる。

③ ビオトープの改善策について、自分なりの考えを提案することができる。

① 「緑のカーテン」の効果を確かめる方法について、考えようとしている。

② 「緑のカーテン」の効果を調査し、環境に対する利点を考えることができる。

③ 環境負荷の少ない、快適な校舎の在り方について考えることができる。

④ ペレットストーブのデータを採取して調べ、その効果について考えることができる。

⑤ 低環境負荷型の「エコ改修」について、自分なりの考えを提案することができる。

① 1年間の学習を振り返り、学んだことをまとめることができる。

② まとめたことを基にして、下級生に伝えるための発表原稿を作成することができる。

③ 『6年生を送る会』の場で、下級生に伝えたい想いを明確に発表することができる。

